文・写真｜佐藤彰美（川崎市立東門前小学校）

国語

1・2年生｜「読み聞かせのひとつの方法」

「絵を読む」を合言葉に　絵本の読み聞かせ

1．担任の読み聞かせを

読書活動の大切さは、誰もが理解しているところである。1・2学年の「読むこと」の言語活動例では「ア　本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと」「イ　物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること」と示されている。現在、「朝読（あさどく）」として読書活動を日課表に位置づけ、読書や図書ボランティアの方々の支援による読み聞かせを行っている学校も多い。図書ボランティアによる読み聞かせもありがたいが、担任による読み聞かせこそ、子どもたちと物語を共有し、そして心の距離を縮めるのに大事にしたいものである。

2．絵本の読み聞かせ

読み聞かせは、低学年から高学年まで、どの学年の子どもにも喜ばれる活動である。その中で、低学年の1・2年生は絵本の読み聞かせが多くなる。国語科の「読むこと」の目標は「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」とある。そこで、次のような絵本の読み聞かせを試みてはどうだろう。

3．合言葉は「絵を読む」

「今から先生が『○○○（絵本の題名）』を読みます。けれど、最初は声を出して読みません。ゆっくりページをめくって絵だけを見せていきますから、みなさんは絵を見て、どんなお話か想像してください。そして、みなさんも声を出さないでくださいね。その代わり、おもしろいな、かなしいな、こわいな、ふしぎだなと思うことがあったら、その時は顔で、おもしろいな、かなしいな、こわいな、ふしぎだなという気持ちを表してください。**はじめは絵だけを読みましょう。**本の題名だけは声に出して読みますよ。『○○○』。さあ、始めますよ」

このように話した後、子どもたちに絵本の1ページ1ページをゆっくり見せていく。

子どもたちは、題名と1ページ1ページの絵をつなぎ合わせ、物語のストーリーを想像していく。ページをめくる毎に、子どもたちの見せる表情が変わっていく。教師も無言ではあるが、絵が変わるたびに表情を変えながら、子どもたちに語りかけ、ページをめくっていく。子どもたちの見せる表情は可愛らしく、そして真剣である。子どもと教師で静かな絵本の世界を味わう時間が過ぎていく。（読み聞かせでは、子どもの表情を見ることはなかなかできないが、この方法では、子どもの顔をしっかり見つめることができる）

絵を見せ終わった後、自分が想像したストーリーを発表させる。子どもたちのストーリーは、稚拙ではあるが、様々で、楽しい。

その後、改めて読み聞かせをしていく。子どもたちは、自分の思い描いたストーリーと実際の絵本のストーリーと比べながら、真剣に耳を傾けていく。

◀▼声を出さずに表情で語る。